

市民企画講座のご案内

「超高齢社会の男性介護者の生き方」 企画：男性介護者の会「みやび」

日時：令和2年 8月16日(日) 14時～15時半

会場：高岡市男女平等推進センター会議室

Eフェスタ2020 (第1期)のご案内 8/30(日)～9/6(日)

【ワークショップ】会場：男女平等推進センター（※印はウイング・ウイング高岡4階ホール）
高岡民主商工会婦人部(8/30)、シャキット富山35(8/30)、ベアテさんの会(8/31)、
NPO法人Nプロジェクトひと・みち・まち/地域女性ネット高岡(9/1)、まちの福祉しらべ隊(9/2)、
カーテンコール(9/3)、新日本婦人の会富山県高岡支部(9/3)、高岡市男女平等推進センター/商業
雇用課※(9/3)、高岡地区広域圏のゴミ問題を考える会(9/4)、NPO法人親と教員の会こどものその
(9/4)、高岡DV被害者自立支援基金パサパ(9/4)、富山CAP(9/5)、クローバー会(9/5)、
性別にモヤモヤしている人が安心して暮らせる富山をつくる会(9/5)、
トークサロン・エンジェル会(9/6)、ふぁん・ふぁしい・café(9/6)

【展示】会場：ウイング・ウイング高岡1階交流スペース
あすなろ、アレッセ高岡、NPO法人Nプロジェクトひと・みち・まち、カーテンコール、
NPO法人親と教員の会こどものその、劇団P.O.D.、憲法9条ファンクラブ@高岡、
性別にモヤモヤしている人が安心して暮らせる富山をつくる会、男性介護者の会「みやび」、
トークサロン・エンジェル会、ふぁん・ふぁしい・café、富山県男女共同参画推進員高岡連絡会、
高岡市男女平等推進センター/男女平等・共同参画課

〈センター&登録団体の8、9月の活動予定〉

8月 4日(火) E ネット定例会	8月 30日～9月6日 Eフェスタ2020
16日(日) 市民企画講座	9月 15日(火) E ネット定例会
27日(木) 「ありて」第3回編集会議	25日(金) 話スペース「ぼこ あ ぼこ」
28日(金) 話スペース「ぼこ あ ぼこ」	下旬予定 「ありて」第4回編集会議

相談室 (配偶者暴力相談支援センター)

専任相談員が、DVや生き方、夫婦の問題等色々な相談を受けています。

※面接相談は要予約

相談時間 月・火・水・金 9:30～16:30
木 14:00～20:00

休業日 土曜・日曜・祝日・毎月第4月曜・年末年始

相談室専用電話 (0766) 20-1811

高岡市男女平等推進センター

休館日 毎月第4月曜日、12月29日～翌年1月3日

所在地 〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡6階)

問合先 TEL:(0766)20-1810 FAX:(0766)20-1815

E-mail: gec@city.takaoka.lg.jp

HP: <http://www.city.takaoka.toyama.jp/gec/kurashi/kyodosankaku/center/index.html>



高岡市男女平等推進センターだより

ありて mate

2020, 8, 1 No.88

ひとりひとりの意識が 社会の「あたりまえ」を作る



高岡市男女平等問題処理委員会 委員

加藤 翔 さん

「男女共同参画社会基本法」という法律があります。平成11年にできた法律で、「男女共同参画社会」の形成を目指すとし、その定義として「男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」としています。

何やら壮大な話のようですが、そうでもありません。例えば、私は、娘へのプレゼントを探しているとき、「男の子用」「女の子用」という表記を見つけ、少し変な感じがしたことを覚えています。「女の子用」とされているぬいぐるみや人形だけから選ぶのは、娘に申し訳ない気がしたのです。実際、私の娘は電車や車が好きで、鍵や工具に興味を示しています。他方、私(男です)は、幼い頃、ぬいぐるみを肌身離さず持っている子どもでした。

男女の問題を考えるときに気に留めておきたいのは、人間の長い歴史の中で、男女の処遇に差が設けられてきたという事実です。そして昔の人も、今を生きる私たちも、能力や性質に大きな違いはないでしょうから、この現実を変えていくには、自然に任せずに、意識的になる必要があるように思います。

そのためにはどうすればいいのか。私は、人の意識というのは、目線(どこに注意を向けるか)によって変わるものだと思います。例えば新型コロナウイルスを経験している私たちにとって、今やマスク着用に抵抗は少なくなりました。手洗いの時間もきっと長い世代となるはず。これは私たちが「感染防止」に強く注意を向けているからであり、社会全体がこのような状態に「慣れた」と言えます。このように各人の意識の集まりが社会の常識を作ります。ですから、ひとりひとりが「男女共同参画社会」というゴールに目線に向け、日々意識することで、それが社会の当たり前になっていくのだと思います。